

「志」が実を結ぶ東松島

恵まれた自然環境を生かした農林水産業の振興を図ります。また地場産業である一次産業と、観光産業、企業や商店など地域の産業連携を図り、雇用の安定と働き甲斐のある地場産業の形成を目指し、「志」が実を結ぶまちづくりを推進しています。



●盛んな施設園芸

東松島市は施設園芸も盛んです。トマト、きゅうりなどの野菜のほか、イチゴや花などが一年を通じて生産され、全国に出荷されています。



●奥松島ひびき工業団地

昭海奥松島ICから車で1分の交通至便の地にあります。分譲面積は約8.1ヘクタール。



●グリーンタウンやもと(矢本工業団地)

大湊地区には、職住接近型の矢本工業団地があります。9区画中、6区画に立地済。



●まちづくり協議会

市内8地区でそれぞれに自治協議会を立ち上げ、市民が自主的な地域づくりに取り組んでいます。



●フラワーストリート

各地区では、それぞれ独自に環境整備や住みよいまちづくりを行っています。



●スクールガード

「地域の子どもたちは地域で守る」を合い言葉に、市内で、児童生徒を不審者や事故から守るボランティア組織「スクールガード」の組織化が進んでいます。



●読み聞かせボランティア

東松島図書館では、読み聞かせボランティア「おはなしのはなたば、布えほん「フェルト」の2つのボランティア組織が図書と市民を結んでいます。

協働のまちづくり

「協働」とは、「複数の主体が、目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること」を言い、「パートナーシップ」という言い方で使われることもありま。市民と行政とが、それぞれの責任と役割を果たすことにより、より質の高い、住み良いまちづくりにつながります。

まちづくりの担い手は、市民、市民活動団体、事業者、行政など市を構成するすべてが主体です。東松島市の持つ可能性を最大限に活かし、住み良いまちづくりを実現するためには、市民の意見集約はもちろ、情報共有しながら、役割と責任、個性を尊重したうえで互いに「協働」し、継続的に成長・向上するまちづくりを推進していく必要があります。

東松島市は、市民が、それぞれの立場で行う自主的な地域づくり活動を推進しています。

活力ある産業の育成

自然環境に恵まれた東松島市は、農業と水産業が盛んです。農水産物については、ほ場整備や漁港整備などの基盤整備を進め、激しい時代にうち勝つ生産性の向上が求められています。

また、東松島市は、海水浴場や磯浜遊覧、航空祭など全国に誇る観光資源やイベントがあります。しかし、通過型が中心で十分に資源を活かされていないことから、次産業との連携や体験型メニュー、ルート整備などを進めています。さらに市街地の商店街の活性化や企業誘致活動も合わせて進め、地域の特性を活かし、各産業の連携を図りながら、雇用の場の確保を進めています。



●ノリの種付け作業

ノリは、技術の進歩により、秋ごろ、陸上でノリの胞子を網に付けていく作業を行います。水槽にとりつけた直径約3メートルの水車にノリ網を巻き付けて回転させ、ノリの胞子を網に定着させます。種付けされたノリの収穫が始まるのは初冬になります。

「想」が行き渡る東松島

市民と行政がそれぞれに果たすべき責任と役割を分担し、協力しあう「市民協働」によるまちづくりを進め、東松島市に暮らす人々の「想」が行き渡るまちづくりを推進しています。